

山野美容専門学校 学校関係者評価報告書

学校法人山野学苑
山野美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山野学苑山野美容専門学校における令和 6 年度の自己点検評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施いたしました。以下のとおり報告いたします。

開催日時：2025 年 11 月 13 日（木）10：00～12：00

開催場所：本学 9F 会議室

出席者：学校関係者評価委員

小野田 光伸	山野美容専門学校後援会会長 美遊代表
新藤 和久	株式会社田谷 常務執行役員 人事総務本部長
米山 実	株式会社東京美髪芸術学院 代表取締役社長
千葉 龍太郎	日本ロレアル株式会社 ブランドエクスペリエンス マネージャー

山野学苑教職員

山野 愛子 ジェーン	学苑長・校長（欠席）
中川 巧 スタン	理事長補佐
橋 しのぶ	副校長
大野 雅子	副校長（欠席）
佐藤 美香	教頭
新井 敬朗	教頭（欠席）
横川 岳春	事務局長・教務部長
荻野 道人	事務局長補佐
高谷 丘人	キャリアサポートセンター室長
山本 真理子	総務課長
土屋 信介	職業実践専門課程担当
土田 吉久	職業実践専門課程担当・主任

実施方法：令和 6 年度の自己点検評価報告書を基に、各基準項目に沿って担当者より説明と取り組みを聞き、評価を行った。

【理事長補佐挨拶】

＜中川巧スタン理事長補佐＞

本日は、お忙しい中、学校関係者評価委員会にご出席いただきありがとうございます。
皆さまの日ごろのご協力に感謝しております。学校をより良くする将来を迎えられるよう、最善の努力をして参ります。本日は、資料をご覧いただき、適切なご意見を願います。

【委員自己紹介】（従来のメンバーは挨拶省略、役職変更となった3名が挨拶）

＜横川事務局長＞

前回会議では教頭兼教務部長という立場でしたが、このたび事務局長を拝命して参加しております。

＜土屋先生＞

私事ですが、退職のため、今後こちらの委員会担当は、土田先生に代わります。本日は、土田先生への引継ぎを兼ねまして、最後の司会をさせていただきます。

＜土田先生＞

土屋先生より職業実践専門課程担当を引き継ぐこととなりました。すでにメールでのやり取りはさせていただいていますが、今後ともよろしくお願いいたします。

＜土屋先生＞

校長先生は、現在岡山県で開催している「全国理美容全国大会」に本校学生が4名出場している関係で出張中のため、本日はご欠席となります。

1. 教育理念・目的・育成人材等

＜土屋先生＞

事前に配付しております「令和6年度自己点検評価報告書」を基に、多方面方のご意見を願います。

＜米山先生＞

前回、英語クラスを作るという話がありましたが？

＜横川事務局長＞

前回、校長先生から、そのようなお話がありました。現時点では、テキストのブラッシュアップをして、現場のサロン会話に特化したワークショップ教育を取り入れました。また、そ

のために、海外でサロン経験がある教員に新たに入ってもらうことで、学生全員の英会話力の底上げを図っています。英語だけのクラスはまだ実現していません。

<千葉先生>

英語のクラスは一つの手段なので、ここに記載せず、「(3)の学校の将来構想を抱いているか」の部分に追記してはどうでしょうか。「グローバル化や社会貢献を目的としている」という記載に変える。海外研修も含めて、目的に含む方が適しているのでは？

<スタン理事長補佐>

グローバル化に関しては、山野愛子ジェーン校長が、中国の学校とのコラボレーションを考えています。少子化対策で、海外にも目を向けて研修会の開催などを今後検討していきます。日本の技術は、中国の注目を集めており、講師も色々な先生にお願いをする予定です。

2. 学校運営

<土屋先生>

「2.学校運営」について、こちらはいかがでしょう？

<一同>

変更なし

3. 教育活動

<土屋先生>

先ほど英語教育についてご意見いただきました。その他いかがでしょうか。特に「(4) キャリア教育、実践的な職業教育」の新授業について、前はスライドを使って説明しました。令和6年度から正式に行われ、1年経ちますので今回記載しています。

<横川事務局長>

- ・昨年度が「キャリア授業」実施1年目だった。美容学校としては未知の取り組みだったが、学生は、高校の授業でワークショップには慣れていたため、スムーズに授業が行われた。
- ・大谷翔平選手の例を基に、9マトリクスを作成させた。
- ・ひとり一人が持つ将来の夢や目的を、漠然としたイメージから言語化することができた。
- ・グループワークで隠すことなく皆に見せながら発表できたことで、サロンでの接客の際に、自分をアピールする表現力のトレーニングにもなった。
- ・自分自身を表現したことや、言語化していった効果なのか、普段授業で学生と接する中で、例年の学生との変化を印象として感じる。

- ・初めて「キャリア授業」を学んだ学生が2年生になり、現在就職活動期に入った。就職率の向上につながるかは、今後、キャリアセンター室から発表があると思う。

<スタン理事長補佐>

- ・クラブ活動は、カリキュラムの中の教育ではないが、良い効果をもたらしている。ダンスチーム、YouTube チーム、コンテストクラブなどで、目的のために計画的に最後までやり通す力を培っている。美容の技術だけでなく、今後の人生においても大切なことを学ぶ。
- ・YouTube 作成では、動画を作るための構想を練り、出演者を調整し、撮影するまでの工程がある。過程の中で多くの問題が出るが、そこで解決能力を育む。
- ・通常の授業教育でも、やり遂げて次に進む、それを繰り返すことが次に進む人生の経験となるが、そのための更なる支援をすることがクラブ活動の趣旨でもある。

<千葉先生>

- ・ワークショップのスキルを言語化することや、スタン先生のクラブ活動の話は、人間形成の広義として大切だと思う。美容学生に向けては、もう少し手前の段階の提案もしたい。クラブ活動だけでなく、課外活動もブラッシュアップしてはどうか。
- ・私も課外活動を手伝ってきたが、そこでは、美容師として直面する現実的な部分を教えている。例えば、技術の鍛錬と同時に、美容師になってから感じることで、「同じカラーだけれど差がある」こと。社会貢献としては、シングルマザーの方と一緒に取り組ませていただき、「同じお客様だけれど、違うグラウンドがある方がいる」という意識づけをすること。そういったことを課外活動として提案している。ただし、参加学生が少ないという課題がある。
- ・先生方には、教育活動の中の課外活動の位置づけ、目的を、学生に向けても打ち出していきたい。その目的に応える形で課外活動の内容を提案できるようになるといい。自分にとって必要だと思う課外活動があれば、参加人数が増えると思うし、こちらとしてもニーズに合ったものを開講したい。

<横川事務局長>

- ・通常授業にはカリキュラムポリシーがあるが、課外については目的が漠然としてしまっているかもしれない。「この課外授業は何のために行われるか」という目的を学校側が把握しきれないまま、組み立てのところまで、外部の方にお任せしてしまっている現状がある。
- ・学校側が目的・目標を提示して、課外授業をデザインしていくことが望ましい。

<小野田先生>

先生たちの肌感覚で良いので、学生はどんな授業に強く興味を持つのか教えてください。

<橋副校長>

パンフレットにあるように、今年度から、2年生の選択授業「テクニカル」授業の構成を変えました。職業別の内容に特化しており、4コースで1つを選ぶ形で、20日間学びます。その選択結果から、学生のニーズが分かりました。カット・サロンワークコース 205名、メイクアップ 83名、ネイル・アイリスト 73名、ヘアアレンジ・ブライダル 60名。ここから分かるニーズは、カット・サロンワークコースの人気の高かったことです。カットについては土田先生がご担当ですが、いかがですか？

<土田先生>

美容師を目指しているので、カットカラーに興味がある学生はもちろん多い。学生の興味を引いて成長を促すために、基礎練習はなぜ必要か理由付けを指導しています。また、講師に入るサロンさんに依頼して、現場の美容師ならではの技術など、学生が欲しがる内容も盛り込んでカリキュラム化しています。繰り返しの練習や基礎鍛錬の他に「美容はこんなに素晴らしいものだ」と伝えるためにも、日替わりでカリキュラムを組んでいます。

<新藤先生>

デビューが早く、現場でのニーズが高い技術として、メンズとカラーがあります。カット・サロンワークコースの中にも、メンズとカラーに特化したものがあると良いのでは？

<橋副校長>

20日間の内、半分は教員が基礎を教え、半分は外部講師の授業です。学生が楽しみにしているのは外部講師のプログラム。学生アンケートでは、基礎の後に、後半のプログラムで「現場の声を聞いたのが楽しかった」というのが一番多い。

<土屋先生>

- ・今の選択科目の話は、「(5) 新カリキュラム」にあたる。本校のパンフレット 9～10 ページが該当。
- ・教育課程編成委員会の方で、若手のサロン店長や経営者に来てもらい、意見をもらいながらこのプログラムを組み立てた。
- ・学生アンケートも取っているので、次回はその報告を行う。ただし、学生のコース希望人数に偏りがある場合、内容は見直すこともある。
- ・全ては、学生の授業料の中で行うため、何でも好きなものを作ると材料費が上がってしまう。学費にも関わり、難しいところもある。

<新藤先生>

実務実習はいかがでしょうか。就職のミスマッチを防ぐためにも有効です。以前の実務実習

は片付けなど簡単なことだけしかできませんでしたが、現在は、管理美容師のもとであれば実習ができます。実務実習が具体的にカリキュラムに入ってくると産学一体の話になり、良いかと思いますが。

<土屋先生>

管理美容師がいれば色々な実習ができるということですが、新藤先生のお店では、例えば実務実習に来た学生がシャンプーを行うことは可能ですか？

<新藤先生>

昔はだめでしたが、今は解釈が変わりました。カットなど実際にお金をいただくものは行っていないですが、管理美容師の指導の下であれば、お客様にシャンプーができます。

<土屋先生>

他の美容室でも、同様でしょうか？

<新藤先生>

広く周知されているとは言えないので、まだまだ情報がアップデートされていないサロンもあると思います。

<荻野事務局長補佐>

学校へは、厚生労働省から文書が通達されました。

<高谷キャリアセンター室長>

ただし、管理美容師の下、インターンシップにおいてという注釈があります。

<米山先生>

その通達の下、店舗においても、学生指導のルールを取り決めて運用されていると思います。私の店では、学生はお客様の施術をしません。その代わり、実践に近いものを体験できるようにと、全社に通達して、スタッフがモデルとなって美容学生にシャンプーの練習をしてもらいます。せっかく実務実習をしても、掃除や見学だけでは「美容師って楽しくないな」というモチベーションの低下になりかねないので、学校が取り組むのであれば、カリキュラムをしっかりと考えた方が良いでしょう。

<土屋先生>

運用方法は、一律ではなく、受け入れにご協力いただく美容室と相談ということですね。

<高谷キャリアセンター室長>

管理美容師の下、金銭の授受なくという条件。文科省からも離職率の問題があるので、専門学校や大学で実務実習を推進するようという話は出ています。美容学生においては、インターンシップの実務実習において、というところをしっかりと押さえ、引き受けてくださるサロン様とは、カリキュラムの相談と線引きが必要です。サロン様側に、大手の法務担当がいればいいですが、個人経営の店の場合は、線引きを誤らないように、学校側が調整しないといけないと思います。今、この制度は過渡期にあります。整備され、文書化され、明示されれば、我々も学生を送り出すことが可能ですが、学生の人数が多いこともあり、現在は慎重に考えています。

<米山先生>

例えば、選択授業で「ネイル・アイテクニカル」がありますね。アイサロンでは、学生に出来ることは少なく、立っているだけになりかねません。私の店では、アイサロンを持っているので、もし実務実習期間が1週間であれば、基本は美容室で実習し、1日だけアイに入るなどしています。希望者がいれば、受け皿として対応できます。

<横川事務局長>

皆さまのサロンでは、他校様からすでにたくさんの学生を受け入れているようですが、対応など、お答えいただける範囲で構いませんので、例を教えてください。

<新藤先生>

都内大手の美容学校などを受け入れています。少しでも現場に近いことをしてもらいたいと考えています。料金をいただかない範囲で、クレームを出さず、美容学生も楽しめて、将来に夢が見られるような実務実習を心がけています。

<土屋先生>

その場合の実務実習は、単位になるのですか？

<横川事務局長>

- ・実務実習は法律用語。美容実習の中の、美容室で行える60時間まで。
- ・本校では、コロナ禍以前は、選択授業のサロンワークを行っていたが、現在は行っていない。学生の現場感覚を培うためにも、本来は取り入れたいが、学生数が多く、サロン様にご迷惑をかけないように全員に60時間の手配をすることは難しい。
- ・そのため、サロン様に来ていただいて、学校施設の中で現場感覚を提供している。規模の大きい学校ならではの授業と言えるかもしれない。実務実習の魅力は分かるし、やらせていただきたいが、実現が難しい。

<土屋先生>

サロン様側にお尋ねしますが、だいたい1人当たり何時間くらい受け入れ可能でしょうか？

<新藤先生>

- ・他校の例ですが、1人5日間くらいの研修を受け入れている。学校の要望とこちらのできることを調整してカリキュラムを作る。
- ・学生にとっては、働く美容師と関わることで自体が勉強になる。全員ではなく、希望者のみの制度という学校が多い印象。
- ・学校から、どのエリアのどのサロンでやりたいかという具体的な希望をいただき、こちらから「ではこのサロンでどうですか？」と提案して、店長や管理美容師と調整をして、教育の一環として協力している。

<横川事務局長>

振り分けまでしていただけるのでしょうか？

<新藤先生>

1つのサロンに2人までとして、振り分けます。同時期に複数の学校の学生を預かることもあります。学生を受け入れることは、私たちにとっても就職につながりますし、学生時代に実体験していただくことで、離職率を少しでも減らせることを目的にしています。

<米山先生>

スタッフは実習生がくると喜びます。特に、入社1年目のスタッフは、学生に教えることでモチベーションが上がるようです。

<横川事務局長>

欠席する学生はいますか？初日だけ来て、来なくなるなど。

<米山先生>

それはありません。学校側の都合かもしれませんが、2年生が国家試験勉強に専念できるように、1月～2月にかけて1年生を実習に行かせたいという学校はあるようです。

<横川事務局長>

過去の話ですが、美容学校が1年制の頃は、2年目はインターンでした。そこからスタートしているので、実務実習が「基本的にある」という法令になっています。今、養成施設では、たいていの授業は学校で完結するようになりましたが、現場での学びの場は大切なので、ご

提案は大変ありがたく検討していきたいと思います。

4. 学習成果

<一同>

変更なし。

5. 学生支援

<土屋先生>

就職率の向上が図られているか、退学率の軽減が図られているかなど、いかがでしょうか。本校の就職希望者の内定率は100%です。高谷キャリアセンター室長からいかがでしょうか？

<高谷キャリアセンター室長>

大学の就職率低迷の中、我々は卒業生に対する有効求人数が遥かに大学をしのぎます。離職率は、美容業界だけでなく、大学卒でも3年後離職などと言われています。その中で、キャリアデザインの授業を受けた本校の学生が、今年度卒業していきます。数年をかけて、その効果が離職率として明らかになっていきます。キャリアデザインの影響か、退学率もかなり減っていますので、成果は徐々に出ていていると考えています。

<千葉先生>

今、離職率の話が出ましたが、仕事をやめた学生が転職のために学校を利用することはありますか？

<高谷室長>

開かれたセンターなので、卒業生の相談も受けます。ただ、ご自分の携帯電話で検索して、ご自身で転職活動される方もいると思います。サロンからは、第二新卒のお声がけも多い。卒業して2年目くらいまでは、担任を頼ってくる卒業生も多いので、そういった方には、紹介できています。

<千葉先生>

第2新卒よりも、スキルがあるスタイリストが欲しいと思うサロンもあるのでは？経験者の募集は来ますか？

<高谷室長>

学校には、技術者の紹介を求められることはほとんどありません。サロンごとのスタイルの

違いがあるからだと思います。

<千葉先生>

ブランディング部分ですね。

<米山先生>

国家試験不合格者のフォローアップは？

<土田先生>

年に2回国家試験を受験できますので、次の機会となる半年後に、通信課程ための国家試験対策授業に入っていただき、卒業生は何回でも通えるようになっています。

6. 教育環境

<土屋先生>

こちらは、今までの議論の中で、インターンシップなど、すでにいくつかご意見をいただきました。他はいかがでしょうか？海外研修などは？

<小野田先生>

海外研修で今回初めて韓国に行かれたと思いますが、そちらはいかがでしたか？

<佐藤教頭>

この場に担当者が不在ですが、引率した教員が作成した学生アンケートからは、学生の満足度が高く、「日常会話ができる環境だったため安心できた」という感想もありました。

<小野田先生>

実は、私も韓国研修旅行に同行していました。現地で指導していた講師は、山野美容短期大学の卒業生で芸能人の担当をしている方たちでした。そういう身近な存在だったのが、良かったのかもしれません。参加学生からは、次回は、もう少し日数を長くしたいという意見がありました。

<土屋先生>

研修旅行ですので、旅費はいかがでしたか？

<橋副校長>

個人旅行に比べれば高いと感じた学生もいたと思います。

<千葉先生>

サロン研修もある場合、ヨーロッパで研修を行うとブロンドヘアですが、アジア人の髪だと、リアルでデザインも含めて扱いやすいと思います。

7. 学生の受け入れ募集

<横川事務局長>

高校生のニーズから、1校目の印象で決定する傾向がありますので、総合型選抜、いわゆるAO入試に注力したので高水準となりました。18歳人口は減っていますが、それに伴って応募が減るという事はありませんでした。

<スタン理事長補佐>

SNSコンテンツも後押しになって、高校生の興味をつかんできた。閲覧者やフォロワーの分析を行い、コンテンツを調整したので、Instagramはフォロワー数が1万人になり、オープンキャンパスの集客にもつながったと考えています。

<土屋先生>

募集状況は高い水準をキープしていますが、10年20年前に比べると激減しているとも言えます。サロンも初任給が上がるなど大変な面もあるかと思います。業界自体大変な状況には変わりありません。今後も美容業界全体の発展が望まれます。

8. 財務

<土屋先生>

財務状況は学校ではなく、学苑のホームページをご覧くださいますと、決裁財務報告をご覧くださいいただけます。

9. 法令等の遵守

<土屋先生>

「(3) 自己評価と実施と問題の改善」の項目が、学校関係者評価として、本日の会議でご意見を頂戴しているところです。「(4) 自己評価結果を公開」の項目に関しては、本日の会議議事録をホームページで公開いたしますのでよろしくお願いします。

10. 社会貢献・地域貢献

＜荻野事務局長補佐＞

美容福祉のクラブ活動の一環で、近隣の高齢者に向けて、定期的にビューティーカフェを開催しています。そちらでは、学生がハンドマッサージやネイルなどをしながら交流を持つことを、地域貢献のボランティアとして実践しています。

11. 国際交流

＜新藤先生＞

ご存じのとおり、特区は5年間の日本国内勤務かつ5年後には帰国するということが第一条件です。特区が始まり、2年が経ちました。現在、卒業生も活躍していますので、制度自体は上手く機能していますが、事前の深い理解が必要です。

特区を利用する留学生の場合ですが、在留期間5年間を理解していない場合もあるようです。手続きを4月にしても、入国まで3か月かかってしまう。そこを理解しておらず、結局仕事をできずに生活費がかかる期間があるために、辞退されて帰国というパターンも聞きます。私の会社では、勉強会・説明会をして事前に伝えています。学校の方でも説明をしてもらえれば、機会損失が起きにくいかと思います。

＜高谷室長＞

- ・本校では、丁寧かつ慎重に進めている。特区が始まった過去2年で、希望した4名全員が国家試験合格、N2合格など、条件を満たした特区就職が叶った。
- ・幸い、東京都特区担当である「外国人美容師管理実施機関」が本校の近くにあり、留学生向けに、本校に特区説明に来てくださっている。
- ・現在、1年生で4名の留学生がいる。その4名にはキャリアサポートセンター室からも事前説明をしている。成績優秀であること、N2の取得、国家試験合格、5年で帰国するという条件を説明し、理解してもらっている。引き続き、特区機関、留学生本人、サロン様、学校の連携をとっていきたい。

＜新藤先生＞

特区制度は、国と掛け合ったやっとできた制度です。これを作り上げるまでに10年かかっています。今、まだ開始から2年間しか経っていませんので、もしかしたら5年後には、期限がもっと延びるかもしれませんね。

＜高谷キャリアセンター室長＞

もしかしたら、東京だけでなく、大阪、神奈川など拡大していくかもしれませんね。留学生がほしいというサロンも全国には多いと思います。

<新藤先生>

3 か月働けないという状況の中で、日本でアルバイトもできず、生活費の問題もあり難しい方もいるかもしれません。実際問題として、貯えも必要だという説明も必要かもしれません。

<土屋先生>

入試では留学生の希望者が増えているのでしょうか？特区についての理解は？

<橋副校長>

入試でも説明はしていますが、その段階でどこまで理解しているかは分かりません。入学希望をされる留学生に対しては、丁寧な説明が必要だと思います。

<土屋先生>

それでは、本日の内容は、学校ホームページに議事録として掲載します。
本日はありがとうございました。

以上